

# 中国のフィンテック規制強化とその影響の一考察

京都先端科学大学 李立栄

中国のフィンテック（FinTech）は、インターネット企業の電子商取引決済プラットフォームにおける金融商品販売から発展し、サービスを様々な分野に広げて急速に拡大した。なかでも、人工知能を活用してユーザーの信用リスクをリアルタイムで評価し、ダイナミックな個人信用情報を活用した多彩なサービスを他国に先駆けて展開したことは注目に値する。中国においてこのように発展した背景には、膨大なビッグデータの蓄積、複占プラットフォームによるネットワーク効果、イノベーションが容易な規制環境、従来型金融サービスとの大きな利便性格差、など様々な要因が指摘されている。

このような世界で、先導的なサービスを開発・提供するフィンテックに対して、中国政府の姿勢には、これまで二つの側面があるように思われる。一つは、「穏健で寛容的な規制政策」を導入しながら、イギリスのサンドボックスの手法に似た実験的な新ビジネスを許容するというスタンスである。もう一つは、2015年以降に見られる、フィンテック分野の存在を公式に認定するとともにしっかりとルールを定めて規制監督を強化するという方向性である。

本報告では、中国のフィンテック業界をリードするアリババグループのアントグループのビジネスラインと収益構造を確認したうえで、そのビジネスモデルとリスクについて考察する。さらに、最近の中国当局のフィンテックに対する規制の変化を整理し、規制導入の狙いとフィンテック企業への影響を明らかにするとともに、今後の規制強化の方向性を展望したい。

キーワード：中国のフィンテック、規制強化、金融イノベーション